

昔と今をつなげよう

93才のおばあさんに聞いてみました

ねえ、おばあちゃん。
おばあちゃんの子どものころ
の話を聞かせてくれへん？



おばあちゃんの子どものころ…もう85年前のはなしやんなあ。
おやつはなあ、そら豆にほしイモにあられ。ほかにあらせんだてな〜。
おいしかったな。
夕ごはんの後、兄弟全員でお父さんに決められた分だけのなわをあまな
あがんだんやけどなあ、そんな時にでるわらのくずをしきいの中に入れて、
わらぶとんにしてお日さんにほすとぶわぶわほがほがで気持ちええんさ。
みんなで取り合いて、ねよったんな。あたらかくするの、すずしく
するの、ちえつこて生活しよったんな。

こんなふう^{まじゅう}に昔のちえを広げています。

各地での取組

いらない油から作ったろうそくで、
すすキャンドルナイト。残りのぬ
のを使ってのぬのぞうりづくり。エ
ネルギーを多く使すぎると毎日考
えたり、いらないかと思つたもの
をもう一度使えるように考えたり。
全国各地で、昔のちえをいかした活動
が行われています。



かまへの火入れ

かつて炭は生活の中で大切な役わり
をはたしていました。今は炭を使
う機会はへっていますが、炭の良さ
をりかいし、竹林の手入れもかねて
竹を切り出し、竹炭を焼くグルー
プが各地で活動しています。

写真の「吉兆^{きちちよう}の会」は、竹炭を焼
いたり自然観察会を開いたりして
いる市民活動グループです。

はっつあん、くまさんの今昔物語

はっつあん 「21世紀っていうのは、てえへんだ。菓子ひとつ買えば、ふくろだの、はこだの、紙だのがい
っぱいで、めんどくさくってしかたがねえや」

くまさん 「包みを全部すてるのには、おいらもおったまげた」

はっつあん 「まんじゅうでも、大福でも、竹の皮ひとつで、じゅうぶんってもんよ。江戸じゃクソまでむだ
にならねえ。買いとって畑のこやしにするくらあ。道に落ちた古くぎだって、子どもが集め
て、あめ玉ととっかえるんだから。その古くぎが寺のかねにでもなるってことよ。なにやら、
それを“じゅんかんがた社会”って言うらしいぜ」

くまさん 「でも、なんだ、江戸とちがって、21世紀は夜も昼のように明る
くて、夜通し遊べるってえのは、楽しそうだなあ」

はっつあん 「べらぼうめ。お天道様^{てんとうさま}とともに起きて、日ぐれにねるのが、道理
ってもんだ。おまんまが食えるのも、自然のめぐみのおかげなの
をわすれちゃいけねえ。人間がむちゃばかりするから、地球がお
だぶつになっちゃうって話じゃねえか」

くまさん 「くわばら、くわばら」

